

授業科目区分	分野専門科目 (社会科学分野)	授業対象学生	1年次 選択		
授業科目名	企業戦略マネジメント				
講義題目					
授業方法及び開講学期等	前期・後期・通年	曜日	時限	単位数	2単位
通常授業・集中講義・臨時	集中講義				
担当教員	履修条件				
塩次 喜代明					
授業の概要					
<p>企業の理論と経営戦略のロジックを通じて、企業経営への認識を深めるとともにビジネス・リーダーとしての経営センスを修得する。グローバル化する企業の戦略課題を取り上げ、経営の洞察力を深める。このため講義では事例研究や企業からのゲストスピーカーの講義を取り入れるなど、企業のダイナミズムに触れる工夫を行う。</p>					
全体の教育目標					
<p>企業の戦略的なマネジメントの基本を理解し、経営戦略の理論と実際、技術の戦略マネジメント、グローバル経営などについて学ぶ。これらを通じて、自動車産業や自動車メーカー等を経営という観点から理解できるようにするとともに、戦略的なマネジメントへの研究展望を得ることをめざす。</p>					
個別の学習目標					
授 業 計 画					
(第1回)	会社と経営 組織マネジメントの概要				
(第2回)	ガバナンスとマネジメント				
(第3回)	企業戦略とは何か				
(第4回)	生産戦略, マーケティング戦略, そして企業戦略				
(第5回)	企業のビジョンと戦略				
(第6回)	資源ベースの戦略論				
(第7回)	競争優位の構築				
(第8回)	競争戦略				
(第9回)	技術と戦略				
(第10回)	イノベーションのマネジメント				
(第11回)	技術経営の課題				

<p>(第12回) グローバル経営</p> <p>(第13回) 日本企業の戦略</p> <p>(第14回) 日本的経営のエッセンス</p> <p>(第15回) 総括討議</p>						
<p>キーワード</p>						
<p>授業の進め方</p>						
<p>教科書及び参考図書</p> <p>塩次喜代明他『経営管理』有斐閣。その他の参考書等はその都度指示する。</p>						
<p>学習相談</p>						
<p>試験・成績評価等</p> <p>(評価方法)</p> <p>授業への出席，討議，レポートなどで評価する。</p> <p>(評価基準)</p> <table> <tr> <td>出席</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>討議</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table>	出席	30%	討議	30%	レポート	40%
出席	30%					
討議	30%					
レポート	40%					
<p>その他</p>						

授業科目区分	分野専門科目 (社会科学分野)	授業対象学生	1年次 選択		
授業科目名	プロダクション・マネジメント				
講義題目					
授業方法及び開講学期等	前期 ・後期・ 通年	曜日	時限	単位数	2単位
通常授業・集中講義・臨時	通常授業				
担当教員	履修条件				
吉田 基樹					
授業の概要 もの造りの歴史をひもとく中で、先覚者が持つ開拓精神を抽出しつつ、生産の技術を学び、技術センスを磨く。日本の近代工業化における生産・技術革新、アーキテクチャー論によるもの造り論、最先端の生産と技術などの事例をまじえて講義する。					
全体の教育目標 わが国では生産から販売にいたる現業部門にかかわるオペレーションのマネジメントは競争優位の源泉として独自の発展を示しているが、そのなかでも生産管理システムには各企業に固有の技法が確立されている。ここではこれらの技法を総括的に把握しつつ、技法の背後に横たわる原理を修得して、プロジェクト・マネジメントの新たな展開の担い手に求められる洞察力を磨く。					
個別の学習目標					
授 業 計 画 (第1回) 生産管理論の歴史 (第2回) 生産管理論の現状 (第3回) ものづくり哲学 (第4回) アーキテクチャー論による生産管理 (第5回) 生産システムの考え方 (第6回) もの造り現場の生産管理 (第7回) 日本における近代工業社会の成り立ち (第8回) 生産・技術革新史—理化学研究所を事例に (第9回) 生産・技術革新史—臨海埋立銑鋼一貫製鉄所の建設 (第10回) 生産工程と工場レイアウト (第11回) ミクロ技術—結晶、ナノ					

<p>(第12回) マクロ技術—ジェットエンジンの開発事例</p> <p>(第13回) 最先端の生産と技術</p> <p>(第14回) 輸送と技術</p> <p>(第15回) 総括討議</p>				
<p>キーワード</p>				
<p>授業の進め方</p>				
<p>教科書及び参考図書</p> <p>その都度指示する。</p>				
<p>学習相談</p>				
<p>試験・成績評価等</p> <p>(評価方法)</p> <p>授業への出席，討議，レポートなどで評価する。</p> <p>(評価基準)</p> <table> <tr> <td>出席</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>60%</td> </tr> </table>	出席	40%	レポート	60%
出席	40%			
レポート	60%			
<p>その他</p>				

授業科目区分	分野専門科目 (社会科学分野)	授業対象学生	1年次 選択		
授業科目名	市場システム分析				
講義題目					
授業方法及び開講学期等	前期・後期・通年	曜日	時限	単位数	2単位
通常授業・集中講義・臨時	集中講義				
担当教員	履修条件				
田中 謙一郎	Microsoft Excelの基本操作が出来ること。				
授業の概要 流通と物流を市場への戦略適応として把握し、企業の市場システムの分析を学ぶ。現代の自動車の流通システムの実践的な課題を分析的に理解するとともに、物流の効率性の分析やグローバル化するサプライチェーンの実践的な理解を深める。					
全体の教育目標 DEA や TOC のコンピュータ・ソフト実習を通じて、自動車流通システムのサプライチェーンとしての課題を明らかにする。					
個別の学習目標 S P S S や R による多変量解析で経営データの市場分析を習得する。					
授 業 計 画 (第1回) 国内アセンブリメーカーの現状と課題 (1) (第2回) 国内アセンブリメーカーの現状と課題 (2) (第3回) 国内部品メーカーの現状と課題 (1) (第4回) 国内部品メーカーの現状と課題 (2) (第5回) DEA (包絡分析法) の分析フレームワーク (第6回) DEA (包絡分析法) による流通効率性の比較 (第7回) サプライチェーン分析の基礎 (第8回) TOC (制約理論) とサプライチェーン (第9回) スループット会計とサプライチェーン (第10回) 出店計画と判別分析 (第11回) 融資先選別とクラスター分析 (第12回) 国内サプライチェーンの課題 (第13回) サプライチェーンのグローバル化 (第14回) サプライチェーンのシミュレーション分析 (第15回) 国内自動車アフターマーケットの現状と課題					

<p>キーワード</p> <p>DEA (包絡分析法) ; サプライチェーン ; TOC (制約理論) ; 判別分析 ; クラスタ分析 ; アフターマーケット</p>
<p>授業の進め方</p> <p>課題を示し、e-learningソフトであるMoodleを用いてレポートを提出する。</p>
<p>教科書及び参考図書</p> <p>「自動車年鑑」 (日刊自動車新聞社)</p>
<p>学習相談</p> <p>毎日4時10分～5時にPC室 (西南学院大学東キャンパス大学院棟3階) で学習相談を行う。 希望する者は事前に電子メールで相談の希望日時, 相談内容を連絡の上, 予約すること。 (urashima@seinan-gu.ac.jp)</p>
<p>試験・成績評価等</p> <p>(評価方法) DEA や TOC に関するコンピュータ・ソフトの実習を行う。この実習課題によつて主な評価を行う。 (評価基準) 出席点 10%, 授業参加点 30%, 実習課題 60%の割合で評価する。</p>
<p>その他</p>

授業科目区分	分野専門科目 (社会科学分野)	授業対象学生	2年次 選択	
授業科目名	グローバル経営			
講義題目	企業、組織、日本的経営			
授業方法及び開講学期等	前期・後期・ 通年 木曜日 2時限	単位数	2単位	
通常授業・集中講義・臨時	通常授業			
担当教員 久原 正治	履修条件 入門ミクロ経済学と経営学入門の理解			
授業の概要 企業と組織の原理を学ぶと共に、経営のグローバル化の中で変貌する日本的経営の実態を具体的に検討し、グローバル経営の動向について適格な理解が出来るようにする。				
全体の教育目標 日本経済は、経済のグローバル化、企業活動の国際化の進展と共に目覚ましい発展を遂げた。本講義では、企業と組織の基本原理を踏まえたうえで、企業経営のグローバル化とは何か、日本企業の経営の変貌について具体的事例により検討する。これを通じグローバル経営原理への理解を深める。				
個別の学習目標 企業、組織の基礎理論の理解 グローバル環境下での日本企業経営変貌の理解				
授 業 計 画 (第1回) What is the Globalization (第2回) The nature of the Firm (第3回) The Limit of Firms (第4回) Transaction costs (第5回) Agency Problems (第6-15回) Changes of Japanese management-Case Studies				
キーワード Theory of the firm, Agency problem, Transaction costs, The Limit of firms, Japanese firm				
授業の進め方 英文の論文及び書籍を教材として、双方向の議論型授業により、問題の理解を深める。				
教科書及び参考図書 教科書: George Olcott "Conflict and Change" Oxford University Press, 2010 参考書: Kroszner & Putterman "The Economics Nature of the Firm" Cambridge University Press, 2010				
学習相談 木曜日午後経済学研究院516号研究室 642-2486				
試験・成績評価等 (評価方法) 授業参加, プレゼンテーションと課題レポートで総合評価				

(評価基準)

授業中の議論参加：30%

ケースプレゼンテーション：30%

期末レポート：40%

その他

授業は英語で行う

授業科目区分	分野専門科目 (社会科学分野)	授業対象学生	2年次 選択
授業科目名	交通の経済学		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	前期・後期・通年	曜日 時限	単位数 2単位
通常授業・集中講義・臨時	集中講義		
担当教員 正司 健一	履修条件		
授業の概要 交通問題，道路交通の最適化，海上輸送や航空輸送の経済分析や航路およびポートの最適配置などを分析的に検討するとともに，交通がもたらす便益と損失についても論じ，自動車社会のあり方についての展望を考える。			
全体の教育目標 都市公共交通の運営，交通需要マネジメント，くるま社会，さらに鉄道企業の経営戦略などを取り上げ，交通をめぐる課題への理解を深める。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第1回) 交通とは何か (第2回) 交通と経済 (第3回) 交通サービスの経済 (第3回) 交通需要マネジメント (第4回) 公共交通とその民間供給 (第5回) 都市公共交通機関の戦略 (第6回) モータリゼーションの進展 (第7回) モータリゼーションとビジネス (第8回) モータリゼーションと交通の課題 (第9回) 自動車と交通の課題 (第10回) 交通インフラと交通システム (第11回) 新しい交通システムの展開 (第12回) 交通政策の展開 (第13回) 現代の自動車交通の課題 (1) (第14回) 現代の自動車交通の課題 (2) (第15回) 総括的討議			
キーワード			
授業の進め方			

教科書及び参考図書

正司健一『都市公共交通政策:民間供給と公的規制』, 千倉書房, 2001年.

学習相談

試験・成績評価等

(評価方法)

出席とレポートによって評価する。

(評価基準)

出席(討議への参加を含む) 40%

レポート 60%

その他